

第11回佛教図書館協会研修会

文鏡秘府論校勘考—難字・異体字の翻刻について

高野山大学図書館 田寺則彦

①井上靖『澄賢房覚書』『若き日の高野山』（『井上靖歴史小説集』第11巻所収）

・『澄賢房覚書』

「最近『折負輯』という全く今までに誰にも知られていない写本十巻が発見されたのということである。その『折負輯』なるものは一口に言えば天保六年までの高野諸寺院の過去帳を輯めたものであって、その資料的価値に至っては量り知れないほど大きいものがあり、取りあえず吉村はそれを書き写しておくことにして」

・『若き日の高野山』

「二十六年の春、『澄賢房覚書』という小説を書くために高野山を訪ねた。(略)親王院に泊めて戴き、水原堯栄、中川善教両師からお話を伺った。(略)古文書の文章には、古文書の文章としての独特の調子があるので、すべて中川師の添削加筆を仰ぐほかなかった。」

②『金剛峯寺諸院家析負輯(ゴンゴウブジョインゲセキフシユウ)』析⇔折

「析負」析薪ヲ負ウ一父が薪を割れば、子がこれを負うこと。子孫が能く父祖の業を継いで失墜しない喩。

・一隅を照らす「照于一隅」⇔「照千一隅」

雖居一隅而光照千里 于、千、干
『照千隅論攷』木村周照編著・青史出版・平成14年11月【添付資料①】

・和同開珎→「カイチン」か「カイホウ」か
珍←珎→寶
『角川日本史辞典 第二版・新版』【添付資料①】

③「魯魚亥豕の謬」か「音通の謬」か
・「和尚打傘」→「無髮無天」→「無法無天」
法もない天もない→無茶苦茶やいたい放題
→「雨傘を手に世間を渡る孤僧」エドガー・スノー・毛沢東インタビュー

④『統真言宗全書』高野山大学統真言宗全書刊行会 会長中川善教

⑤『定本弘法大師全集』高野山大学弘法大師著作研究会

⑥『文鏡秘府論』弘法大師空海撰 6巻(天地東南西北)

・六朝末期から中唐期の文学理論、音韻論、創作技術書のアンソロジー

・『文鏡秘府論箋』維寶編18巻(『真言宗全集』)第41巻所収)加地哲定校訂・昭和11年「諸本の間に着しい異文のあるにも拘わら

ず、それらを挙げていないことが多い。かように妥当を缺く所が少なくないばかりでなく、時には事実無根の校合があつて、およそ半分は信ずべからざるものである。従つてその多大の労力にも拘わらず、学術的資料として殆ど用をなさないのは遺憾である。」(小西甚一『文鏡秘府論考 研究篇上』16頁)【添付資料②】

・『文鏡秘府論考 攷文篇』小西甚一校訂・昭和28年

「今回の校勘作業の過程で、気づいたことがいくつかあるが、とりわけ流布本のなかで、善本とみなされてきた、小西甚一氏の『文鏡秘府論考攷文篇』を照合してみると、その本文に誤字、脱字が、その校異に見落とし、見誤りが、かなり多く発見されたのは、意外であった。(略)その後の日中両国における『文鏡秘府論』研究が総じて小西本を間違いのない校本として踏襲してきたところに、今後の課題をのこしたといえる。」

(林田愼之助「『文鏡秘府論』校勘考」2、82頁、41頁)【添付資料③④】

⑦元禄五年、浪人の藪医者は餞別に何をもらつたのか?

『高野山説物語 七之巻 諸牢人橋本江集事』(『続真言宗全書 第41』)【添付資料⑤】

⑧「急」の異体字『新大字典』(講談社)【添付資料⑥】

・完璧な「難字・異体字」の字典はない。

⑨略字・略号一覧『密教辞典』(法蔵館)【添付資料⑦】

・介法印(すけのほういん)→東寺頼寶→介(金剛の略字)→×金剛法印

・汀(灌頂)・ロイ(口伝)・ササ(菩薩)・メメ